美しいまちづくりのために

かなざわ景観だより

第7号

LANDSCAPE NEWS OF KANAZAWA

平成十二年(二〇〇〇)三月発行
■企画編集／景観だより編集委員会
■発行／金沢市広坂一丁目一一
(〇七六)二二〇一三六四
金沢市都市政策部まちなみ対策課

伝統の風景に出会う

伝統環境保存区域に新たな歩み

金沢には、起伏に富んだ地形を背景に、犀川・浅野川の二つの流れと豊かな緑、そして貴重な歴史的まちなみに彩られた伝統の風景が良く残されてきました。伝統環境保存区域とは、そのような景観を市民みんなの手で守り、育て、創り出すことを目指す区域です。

そして、その歴史にこのたび新たに4つの区域が加わりました。いずれも市街地の周辺にあって、独特の景観を今に伝えています。いつまでも変わらぬ美しさを伝えていきたいものです。

二俣(ふたまた)・田島(たじま)地区

金沢近郊の医王山、戸室山の山あいにひっそりとたたずむ一帯の集落は、蓮如上人ゆかりの本泉寺に見るように中世以来の歴史を受け継ぎ、藩政期には和紙や金沢城の築城に用いられた戸室石の産地として、加賀藩の手厚い庇護も受ける要地としてにぎわいました。

一帯は今も、清流と緑、そして美しい伝統民家が織りなす山村集落としてのたたずまいを良く残し、自然と歴史の大切さを私たちに教えてくれます。

湯涌温泉街(ゆわくおんせんがい)区域

古くはわずかな湯治客がひっそりと逗留するひなびた湯治場でしたが、金沢の奥座敷として人々に親しまれるにつれてにぎわってきました。今も山あいの温泉街として周囲の深い緑に抱かれたたたたずまいを残す貴重な界わいとなっています。

金石(かないわ)・大野(おおの)区域

金石・大野地区は、古来より日本海に開けた海の玄関として、独自の歴史を重ねてきました。藩政時代には、金沢城下の外港として豪商銭屋五兵衛に代表される北前船による海運や、藩政初期に始まる醤油醸造の町として大変にぎわったとされています。

今も歴史を感じさせる風格ある町家や醤油蔵などがそこここに良く残り、港町らしい独特の景観を見ることができます。

旧北国街道森本(もりもと)・花園(はなぞの)区域

近江の国と越後の国を結んだ旧北国街道(きゅうほっこくかいどう)は北陸道とも呼ばれ、金沢城下から越前・越中の国々へと向かう重要な街道筋として人々が行き交いました。

現在の森本駅前からJR跨線橋を越え、津幡町へといたる道筋がそれにあたり、下口街道とも言われました。

旧街道の趣きそのままに緩やかに蛇行する道筋沿いに、豊かな緑に彩られた伝統の民家が連なる様子は、しっとりと落ち着いた美しさを見せるとともに、町外れに残る松並木は往時の歴史を今に伝えています。

伝統環境保存区域が初めて指定されたのは昭和43年のことです。この年、全国の自治体に先駆けて制定された金沢市伝統環境保存条例に基づいて、長町の武家屋敷群跡や寺町、卯辰山山麓の寺院群、野田山丘陵といった金沢を特徴付ける代表的な景観を残す一帯約76haが当初に指定されたことに始まります。その後、昭和57年までに13区域約423haまで順次拡大されてきました。

平成元年に設けられた景観条例(金沢市における伝統環境の保存および美しい景観の形成に関する条例)は、この条例を受け継いだものです。そして、この景観条例に基づいて、平成4年8月に現在の「伝統環境保存区域」(32区域　約1,559ha)、「近代的都市景観創出区域」(13区域　約154ha)が指定されました。

これらの区域は、金沢城を中心とする旧の金沢城下を中心に指定がされたものでしたが、周辺の市域にも、それぞれ固有の歴史を刻んだ美しい景観を残す場所があり、それらの保存を目指すことが課題とされていました。このため、景観条例の制定10周年の節目に合わせ、新規に区域指定することとしたものです。

今回、新たに加えられた地区は、「金石・大野区域」「旧北国街道森本・花園区域」「二俣・田島地区」「湯涌温泉街区域」の4区域約330haで、これで「伝統環境保存区域」は、合計36区域　約1,889haとなりました。

土地の記憶

厄年を過ぎてから初めての金沢勤務で、高校生の時以来25年ぶりに金沢の住民となり、本多町に住んでいる。散歩コースの一つであるMROからの裏道は何度通っても間違える迷路のようで、城下町の防備を目的とした町割りを実感出来る地区である。迷った結果、思わぬ所に広見を見つけたり、囲碁の名人秀哉の筆になる本因坊算砂の碑を発見したりする。

生まれ育った旧高道町（現東山2丁目）界隈は、日蓮宗のお寺や勝石積みの土塀に囲まれた卯辰山山麓寺院群の真っ只中である。城下町見て歩きコースの一部にもなり、随分ときれいになったが雰囲気は昔とちっとも変わっていない。国道沿いに並ぶ店もほとんどが昔のままで懐かしい。

親の里である南森本は旧北国街道と森下川が交差する所で、街道筋の集落として賑わったようである。昭和34年の皇太子ご成婚を記念して植えられた跨線橋の桜は私の子供の頃、樹勢が盛んで、春の桜のトンネルは壮観だった。お里へ帰る際の玄関口として子供心のランドマークとなっていた。また、北森本まで足をのばすと旧街道の風情を残す松並木の名残があり、こちらに転勤になってからも健在であるのを発見し、地域の人々に大事に守られたことが感じられる。

非戦災都市だから当然かもしれないが、金沢の魅力は江戸と明治、大正、昭和さらに平成の百数十年に亘る五つの時代が同居し、それぞれが個性的な顔を見せるところにあると思う。現代的な街並みからちょっと裏に入っただけで歴史を感じさせる老舗があったり、門構えの立派な古い民家があったり、大正ロマンの洒落た商店があったりする。思わず足を止めて周囲の建物を見渡し、百年を越える歳月による街並みの変遷とそこに住まいしていたであろう人々の歴史に思いをはせる楽しみがある。

それぞれの地区には歴史、風土、生活に根ざした様々な土地の記憶が何層にも重なって独自の景観を見せている。このたび森本地区を始め4地区が伝統環境保存区域に追加指定されたようだが、是非「土地の記憶」が醸し出すぬくもりやにおいを大切にした景観の保全形成を望む。

前川秀和（まえかわ ひでかず）
建設省 金沢工事事務所長
昭和30年、金沢市生まれ
東京大学工学部土木工学科卒業
昭和52年入省
大分県土木建築部道路課長、道路局高速国道課高速道路調整官を経て、平成10年1月より現職。

景観美カタログ

第22回 金沢都市美文化賞

油谷邸（長坂）
閑静な住宅地にフィットした佇まいとなっています。

金沢機工(株)本社社屋
（無量寺町）
端正な造りで、自己のクオリティ感とともに、工業地帯に潤いのある景観ポイントを提供しました。

河村邸（松島）
明るく抑揚感のある造りで、心地良いまちなみ景観を演出しています。

西村邸（専光寺町）
広々と修景された前庭の空間が周辺街路へ潤いを与え、まちなみ景観の整えに寄与しています。

福村邸（弥生）
全体を低く押さえた造りで、周辺の住宅地の景観に溶け込むように配慮されています。

(有)宝生寿し（大野町）
いにしえの面影を残す大野のまちなみにあわせ、伝統的な造りを修復し、見事に再生しています。

割烹 いけの（主計町）
金沢の歴史景観再生への寄与を目指し、細部まで配慮の行き届いた修景がなされています。

気配り賞

金劇パシオン（片町）
将来のまちなみの再生も視野に入れながら、繁華街の街角に小さな広場空間の提供を試みています。

NTT出羽町ビル（出羽町）
色彩・構造・デザインなど周囲の環境に配慮を重ねつつ、耐震修復がなされています。

せせらぎ通り
（長町1丁目・香林坊2丁目地内）
多くの困難を伴う用水修景とその魅力の創出に精力的に取り組んでいます。

金沢都市美文化賞実行委員会特別賞

ふらっとバス
まちなみをゆったりと眺める機会を増やし、まちなみ景観に対する関心と愛着を高めることに寄与している点が、特別賞として評価されました。

第12回 いしかわ広告景観賞

おさけやさん西本
（浅野本町）
酒屋の看板らしく、仕込み樽の蓋を利用し、半円形で文字も珍しいものを使用しています。木製の造りがそれなりの風格を醸し出しています。

お多福扇が丘店（三馬）
建物の形と色とサインが非常にマッチしており、建物に対する看板の位置関係もきちんとしています。柱の位置がアクセントになって非常におもしろく、浮世絵風の絵そうどん屋にマッチしています。

(有)宝生寿し（大野町）
建物全体と看板の雰囲気が調和しており、あんどん風のものもあり、全体的に雰囲気が出ています。夜間の照明もまちなみに調和した控えめなもので、工夫が見られます。

日本海開発(株)
（しじま台）
会社の社名看板であり、水槽等別目的のものを利用した広告塔です。色合いも良く、非常にシンプルで、斜めに入った線がデザイン的にも優れており、背景にもマッチしています。

金沢市（大和町広場内）
金沢市民芸術村の場内案内看板で、色合いも落ち着いており、レンガの古い建物を残した雰囲気によくマッチしています。曲線と直線のバランスも良く、案内板としての機能も充分果たしています。

こまちなみに出会う

昔も今も変わらぬ息づかい…

まちの歴史が積み重なり、時間の経過や住む人の息づかいを感じることができる…。金沢市内に残る、そんな風情のある小さなまちなみの保存をめざし、平成6年「金沢市こまちなみ保存条例」が制定されました。翌年、その第一号の区域として指定されたのが、武士系の住宅地である「里見町」と、かつて町人地であった「旧新町」です。

「里見町」は、加賀藩士・里見氏の屋敷があったことから、この名がついたと言われるまちで、藩政期の地図によると、その他に16軒もの藩士の居宅を確認する事ができます。敷地を囲む土塀。豊かな庭木の緑。その奥に控える大屋根。武士系住宅地の特徴を今に伝えるこの町を訪れると、ここに住む人々の、町の歴史に対する理解と誇りを感じることができます。

一方その町名が、尾張町の拡大に伴い新しく町立されたことに由来する「旧新町」。この町は、隣接する主計町・旧並木町とともに、浅野川界隈に栄えた商業・文化活動の舞台となった場所です。道路に沿って建ち並ぶ家々。白だけでなく、黒や赤に彩られた外壁。格子戸越しに伝わる人々の生活感。金沢を代表する作家、泉鏡花・徳田秋声の作品では、往時のこの町の様子をうかがうことができます。

これら「こまちなみ保存区域」では、町の特徴をよくあらわす建物を「保存建造物」として登録しています。金沢の歴史を今に伝えるこれらの建物を探しながら、まちを散策してみてはいかがでしょうか。

里見町

旧新町

おしらせ

今年も、まち歩きやトーク等楽しい企画を予定しております。金沢のまちや人に触れ、親しみながら、自分たちのまちをもっと理解し、好きになる機会になればと思っています。日程や内容などが決まりましたら、広報やイベント情報誌などでお知らせしますのでふるってご参加ください。

この「かなざわ景観だより」は、まだ若干の予備部数がありますので、もっとゆっくり読みたいと思われる方は、まちなみ対策課までご連絡ください。

まちなみ対策課では、景観についての皆様の率直なご意見やご感想をお待ちしております。日頃感じているちょっとした思い、ふと見つけた素敵なまちなみなどお気軽にお寄せください。

編集後記

今回号は、ふらっとバスの循環ルート上の見どころポイントをご紹介しました。知っている場所も、まだ行ったことのない場所も魅力的なところばかりです。この機会にぜひ訪ねてみてください。きっと、新しい発見があることと思います。

また、平成11年10月1日には、尾張町2丁目地内に旧町名「主計町」が、復活しました。28年ぶりの主計町の復活ですが、旧町名が復活するのは全国でも初めてのケースで大変話題をよびました。

今後とも、皆様のご意見やご協力をいただきながら生き生きとしたよりよいまちづくりに取り組んでまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

TREE FREE
トータル・エコロジー・バランスに優れた21世紀の紙「ツリー・フリー・ペーパー」（非木材紙）を使用しています。